

令和7（2025）年度

編入学・転入学

ロシア語専攻

小論文問題

次の二つの文章を読んだ上で、日本でロシア文化を学ぶ意味について1000字以内で論じなさい。ただし、「近代」、「個人」の語を必ず用いること。

【1】

「露西亜の小説、ことにドストエヴスキの小説を読んだものは必ず知っているはずだ。如何（いか）に人間が下賤（げせん）であろうとも、また如何に無教育であろうとも、時としてその人の口から、涙がこぼれるほど有難い、そうして少しも取り繕（つくろ）わない、至純至精の感情が、泉のように流れ出して来る事を誰でも知ってるはずだ。君はあれを虚偽（きゐ）と思うか」

「僕はドストエヴスキを読んだ事がないから知らないよ」

「先生に訊くと、先生はありゃ嘘（うそ）だというんだ。あんな高尚な情操をわざと下劣な器（うつわ）に盛って、感傷的に読者を刺激（しげき）する策略に過ぎない、つまりドストエヴスキが中（あ）たったために、多くの模倣者が続出して、むやみに安っぽくしてしまった一種の芸術的技巧に過ぎないというんだ。しかし僕はそう思わない」

（夏目漱石『明暗』）

【2】

どんな小説を読ませても、はじめの二三行をはしり読みしたばかりで、もうその小説の楽屋裏を見抜いてしまったかのように、鼻で笑って巻を閉じる傲岸不遜（ごうがんふそん）の男がいた。ここに露西亜（ロシヤ）の詩人の言葉がある。「そもさん何者。されば、わずかにまねごと師。気にするがものもない幽霊か。ハロルドのマント羽織った莫斯科（モスクワ）ッ子。他人の癖の翻案か。やはり言葉の辞書なのか。いやさて、もじり言葉の詩とでもいったところじゃないかよ」いずれそんなところかも知れぬ。この男は、自分では、すこし詩やら小説やらを読みすぎたと思って悔（く）んでいる。この男は、思案するときにも言葉をえらんで考えるのだそうである。心のなかで自分のことを、彼、と呼んでいる。酒に酔いしれて、ほとんど我をうしなっているように見えるときでも、もし誰かに殴られたなら、落ちついて呟（つぶや）く。「あなた、後悔しないように」ムイシュキン公爵の言葉である。

（太宰治『猿面冠者』）

2025(令和7)年度
札幌大学転入学・編入学試験(11月)
ロシア語専攻

【小論文テーマ】

日本でロシア文学を学ぶ意味について

【出題意図】

ロシアの歴史や文化についての学習と、日本文化や日本の生活の関わりについて意識理解ができているかを問うている。また、日本文化についての知識や一般常識がどの程度あるかも問うている。これは本学の地域共創学群というカリキュラムを踏まえたものである。

【回答例】

ロシア文学、特にドストエフスキーやトルストイの作品は 20 世紀初頭にヨーロッパで大流行した。その影響は日本にも及んでおり、夏目漱石や太宰治といった当時の日本文学を代表する作家たちもロシア文学を愛読している。

夏目漱石は『明暗』の中で、ドストエフスキーを読めば下層の人間や無教育な人間にもすばらしい感情があるのだと指摘している。漱石が生きていたのは士農工商という江戸時代の身分制度が終わった後の、しかし、その時代の記憶がまだ残っていた明治から大正にかけての時代だった。

哲学や宗教をテーマとしているドストエフスキーの作品において、漱石がまず目を向けているのがそのような身分制度であったということは、明治維新や大正デモクラシーという時代の大きな変化を反映したものであろう。実のところ、ドストエフスキーに代表される近代ロシア文学の主要な作品が発表されたのも、アレクサンドル 2 世による大改革という、ロシア史における激動の時代だった。農奴解放がなされ、それまで人間扱いされていなかった農民も、同じ人間として扱われるようになったのである。ドストエフスキーの作品の中に見られるそのような時代の感覚を、漱石は敏感につかみとっている。

一方、太宰治は『猿面冠者』の中で、ドストエフスキー『白痴』の主人公ムイシュキン公爵を真似る男を取り上げている。この男の行動が文学作品の登場人物たちの模倣にすぎないことを、太宰はプーシキンの『エヴゲニー・オネーギン』に言及しながら指摘する。

太宰が引用しているプーシキンの一節は、主人公のオネーギンが中身のない人物でイギリスの詩人バイロンを模倣しているにすぎないことを指摘している部分だ。近代社会になり、個人の個性が求められるようになって、人はその手本を文学作品に求め、それを模倣するしかなかった。そのような中身のない人間はロシア文学で「余計者」と呼ばれ、伝統的なテーマとなっている。

太宰が直面したのもプーシキンと同じ問題だった。近代社会が成立する時期に、ひとりひとりのアイデンティティをどのように確立するかが課題となったのだ。

このように日本の作家たちは時代の変化の中で、ロシア文学を参考にしている。ロシアと日本は西欧より遅れて近代化が始まったという共通点を持っていたのもその一因であろう。今でもロシアについて学ぶことは、日本社会の諸問題を理解し、解決するための参考になるはずだ。